

「自律移動支援プロジェクト」の推進



道路研究部 道路空間高度化研究室長 森 望

1. はじめに

日本は世界に類を見ないほど急速な少子高齢化が進展しており、2015年には国民の4人に1人が高齢者になるといわれている。このような背景から、すべての人が持てる力を発揮し、支え合う「ユニバーサル社会」の構築の一環として、社会参画などにあたって必要となる自律的な移動を可能とする取り組みが必要とされている。

国土交通省では、2004年3月に自律移動支援プロジェクト推進委員会を組織し、「移動経路」「交通手段」「目的地」などの社会参画や就労などにあたって必要となる情報について、「いつでも、どこでも、だれでも」がアクセスできる環境をつくっていくための検討を開始した。

自律移動支援プロジェクトは国土交通省の重点施策に位置づけられており、省内はもちろんのこと関係省庁と連携してプロジェクトをすすめている。当研究室では、当該プロジェクトに積極的に参画し、特にシステムの要素技術を含めた技術仕様案等の作成を担当している。

2. システム構築のコンセプト

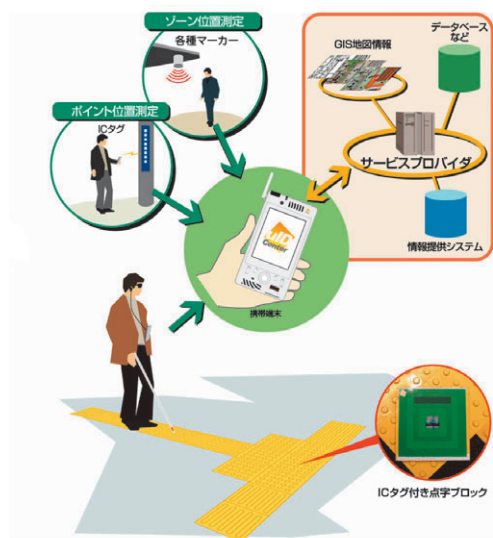
自律移動支援プロジェクトで構築するシステムのコンセプトは主に以下の3つである。

- ①オープンなシステムでつくりあげる
- ②汎用性・拡張性のあるシステムとする
- ③国際標準をめざす

実証実験を積み重ねて技術を研鑽しつつ、システムの仕様を広く公開し、オープンなシステムとして構築するとともに、高齢者、障害者の自律移動のサポートはもちろんのこと、健常者や外国人等向けの民間等サービスの創出にも寄与する汎用性・拡張性の高いシステムとする。また、全体システムならびに要素技術に関する国際標準を目指している。

このため、10年後のシステムの定着を見据えて、産、学、官、市民の知恵を結集しながらシステムの

開発・展開を行っていく必要がある。



図ー1 システムイメージ

出展：自律移動支援プロジェクト推進委員会 神戸懇談会参考資料

3. 技術仕様の検討

自律移動支援プロジェクトは先にも述べたように2004年3月に開始した。2004年度には、サービスや要素技術について検討が行われるとともに、実環境下における要素技術の性能を把握するためのプレ実証実験が神戸の三宮地下街と京町筋において実施された。当研究室では、プレ実証実験結果とこれまでの取り組んできた歩行者ITSの研究開発で培ってきた知見を基に、要素技術の技術レベルを評価して、要素技術の改善点を抽出するとともに、システムならびに要素技術の技術仕様素案を作成している。

4. おわりに

2005年度には神戸において技術仕様素案に基づいたシステムを構築して、実証実験が行われる予定であり、今後その結果を基に技術仕様素案の改良を行い、全国共通の技術仕様策定に反映させていく予定である。